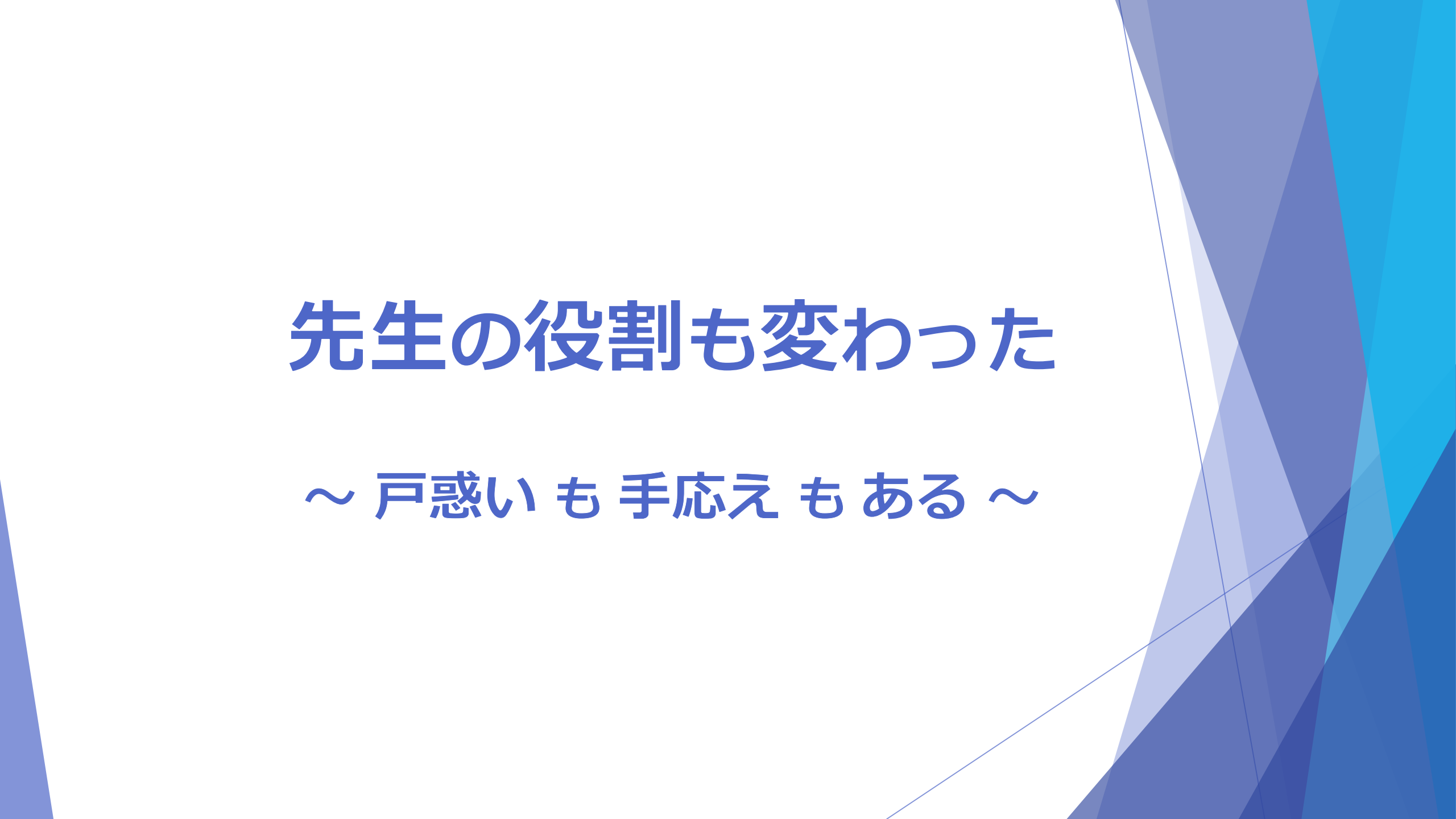


温故創新

おおくま が 目指す 未来の学校

大熊町教育委員会 木村 政文



先生の役割も変わった

～戸惑いも手応えもある～

Qubenaを活用した「手応え」

☆ Qubenaで「**自分から学べる子**」に

- ・ 一斉授業では理解に時間のかかる子のペース
↓
- ・ Qubenaを取り入れてからは、一人一人がじっくりと自分のペースで課題に取り組み、自分が何を学んだか振り返り、自分でまとめる。
 - 『自分で頑張った分だけ着実に身につく』 実感
 - **学び方**が身についてきている

☆ Qubena導入で変わった教員の働き方

- ・ 教える時間、及び教材や資料準備の時間が減少
↓
- ・ 生み出された時間 = 時間の余裕
 - じっくり教科書を読む　さまざまな問題を解く
 - **より教材研究の時間に充てられる**

おおくまの子どもたちが抱く 教員のイメージ

“学び舎 ゆめの森” エリアごとにどんな思いや願いを込めていか...

- ③ 味方 ^{に「関係する」} 同じ目線
- 子どもの “ 傾りにいる ”
 - 子どものヒーロー
 - みんなの “
 - 誰でも、どんな人でも味方する
 - 信用できる人
 - 頼りになる
 - 和茶
 - 応援する、助け合う
 - 守り神
 - 頼れる友達
 - I LOVE
 - バリ がいい
- 温かい < 見守られる
- 楽しい所
- 手伝う人 < 自分 から
- 親切
- 希望
- 1番幸せ
- 支える
- 背中を押してくれる
- 笑顔を見せてくれる
- 未来を考へる人
- 社会の厳しさを教えてくれる

→ 終了 14:20.

- みんなを支える神
- 子どもを支える味方
- 支えてくれるヒーロー
- できないことを教えてくれる人
- 新しく学ぶ



期待されているからこそ
We're the “teachers”.
求められているのは「人間力」

学校現場の教職員の課題

- 決められた業務を最後までしっかりやり遂げるが、業務の必要性や本質のそもそもを考えて、さらにより良く改善していこうとする意欲。
- 自分の強みや得意に気づかなかったり、自信が持てなかつたりすることによる自己肯定感の低さ。
- 教育の本質の「なぜ(Why)」を考え、議論すると言う経験が乏しいことによる判断力の甘さ。
- 問題があつたり、分からなかつたりしたら、組織で一緒に考え、助け合うとする「お互い様、お陰様」の組織風土。
- 物事の本質の「なぜ(why)」を考える経験が乏しいことから、組織としての新しい発想による企画の創出。

求められているのは、教師自身の「人間力」

●人間力（内閣府「人間力戦略研究会報告書」、2003年4月より）

人間力は「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」をいい、次の要素によって構成されています。

構成要素	項目	内容
知的能力的要素	基礎学力	総合的・本質的な見方、専門の基礎的知識、数量的リテラシー（表・グラフ等）、情報リテラシー（情報コミュニケーション技術等）について理解し、活用できる。
	専門的な知識・ノウハウ	専門的知識と技能について、その背景や応用を含め、理解し、活用できる。
	論理的思考力	情報を収集し、複眼的・論理的に分析し、それを的確に表現できる。
	創造力	異なる知識を組み合わせたり、常識や固定観念にとらわれない新たな発想をしたり、さまざまな角度から柔軟に考えたりすることで、新しい価値や新たな行動を生み出すことができる。
社会・対人関係力的要素	コミュニケーションスキル	同じ世代の人たちだけでなく、異なる文化・世代・立場の人たちに対しても、傾聴し、気持ちや意思を推察・尊重・共感し、自分の気持ちや意思を適切に伝え、共に理解し合い、考えの対立を調整できる。
	リーダーシップ	目標やビジョンと問題意識をチームで共有し、メンバーの役割を明確にし、メンバーの能力の向上を支援し、メンバーの気持ちに配慮しながら支え、目標を妨げるメンバーの行動に対してはその理由を述べて注意し、チームを目標達成に導くことができる。
	公共心	社会の一員であることを自覚し、社会の問題を自分の問題として考え、社会全体の利益となるよう積極的に行動できる。
	規範意識	自分が判断・行動するときに従うべき基準について深く理解し、自主的・自立的に規律ある行動をすることができる。
自己制御的要素	他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力（相互啓発力）	他者の考えや意見（良かった点や改善点など）に素直に真摯な態度で耳を傾けるとともに、自分の考えや意見を謙虚に誠実な態度で発表したり、お互いのすぐれた点を見習ったりすることで、お互いに視野を広げ、啓発し合うことができる。
	意欲	生涯にわたって学び続けていきたいという学修意欲、自らを向上させて自分に合った職業について自立した社会生活を送りたいという就業意欲、ボランティア活動・地域活動等に参加して社会に貢献したいという社会参加意欲、高い目標を持ち成し遂げたいという目的意欲を持っている。
	忍耐力	目標を持ち、その実現のために、自分の欲求や衝動を適切にコントロールし、信念を持って粘り強く取り組むことができる。
	自分らしい生き方や成功を追求する力（自己受容・自己実現力）	自分をありのままに直視して受け入れたり、成功モデルや理想像、十年後の自分（必然的未来像）を思い描いて踏み出したり、自分の可能性を探し、広げ、生かしていくことで、自己実現に向けて努力できる。

教師自身が己の能力開発に努める。

おおくまが目指す 考える教員集団

- 1 ビジョン策定 → 教職員がプロとしての唯一無二のキャリアストーリーを創る。
- 2 余白をつくる → 学校のそもそもリストによる事務内容の見直し。
→ 極少人数の学校規模の強み。
→ Ed-techによる効率化。
- 3 チームになる → 小中学校教科担任制。教科部会。お互い様、お陰様の意識。
→ リクルートHITOLAB による研修プログラム。
→ リスペクト。
- 4 探索・探求する → 先進校（自由の森学園、大日向小学校、風越学園、
新渡戸文化学園、札幌新陽高校など）視察。
- 5 実践し、体得する → 未来デザインプロジェクト。
- 6 対話、越境を重ね、自律していく → リフレクション。解説・評価・賞賛。
→ 大学サテライト。

考える教員集団育成のための おおくまmethod

＊リクルート・ヒトラボのプログラムを活用し、教員自身が学習し、成長するノウハウを学び、唯一無二のキャリア・ストーリーを創る。

学習する学校 スクールリーダー・教員養成プログラム 全体像

	テーマ	概要	備考（学習する学校）
1	多様性・自己理解・生徒理解	MBTI、ストレンクスファインダー、マルチプルインテリジェンス等のツールを活用し、人間の多様性を捉える力を磨く。	セルフマスタリー
2	教育理念・教育方針の自分事化（共有ビジョン）	自己の動機源を知り、教育理念・教育方針を実現するために、自己のクリエイティブデモン（内発的動機付け）を活かす方法を学ぶ。ヒエラルキーが求める主体性と、（管理者のいない）ティール組織が求める主体性の違いを理解し、育む生徒エージェンシーの姿を理解する。	ビジョン共有 セルフマスタリー
3	学習力（メタ認知・リフレクション・対話）の基礎	自己の感情、思考、価値観（ものの見方）を俯瞰するリフレクション力を磨く。	メンタルモデル
4	ミネルバ大学探究プログラム（1）	脳神経科学に基づいた「学び方を学ぶ」プログラムを体験し、PBLや探究学習のベースとなる考え方を理解する。	探究学習
5	ミネルバ大学探究プログラム（2）	「複雑性のマネジメント」を学ぶプログラムを体験する。システム思考、行動科学、EQ、チームダイナミクスなどがその要素。	探究学習
6	対話・対立・共創する力	対立を話し合いで合意形成する力を磨く。多様な意見を活かし、新たなアイデアを創造する力を磨く。	対話、チーム学習
7	経験から学ぶ力	経験から学ぶリフレクション力を磨き、OECD 学びの羅針盤2030に紹介されているAARモデルの実践方法を学ぶ。	リフレクション、AARモデル
8	アンラーン・自己変容	前例を踏襲しない問題解決に不可欠な、自らの成功体験を手放し、新しいものの見方を持つために必要なアンラーンのスキルを磨く。教育に求められる変化を、自己変容に結びつける。	メンタルモデル
9	システム思考	複雑な問題を解決するために必要なシステム思考・氷山モデルの活用方法を学ぶ。	システム思考
10	教員のリーダーシップ（①～⑨の学びの総括）	自己らしさを活かした教員の姿、リーダーシップの在り方を見出す。教師と生徒が共同エージェンシーとして共に学ぶ学習する学校を目指す。	リーダーシップ/共同エージェンシー

【第1回】

6/25（金）14:30～16:30

2021年6月～2022年3月まで
HITOLAB ワークショップ

未来デザイン・プロジェクト
として実践

リフレクション

＊ 全10回を実施予定 ＊

子どもの学びを活かす校舎

～ 多 様 性 × 混 在 ・ ア ナ ロ グ × デ ジ タ ル ～

校舎設計におけるテーマ

「多様性と混在」

【多様性とは】

- ・ 年齢、所属や立場を超えて**多様な人と出会う**
- ・ **多様な空間と出会う**（一人で静かに学びに没頭できる場所、みんなで語り合える場所、読書にふける場所、お気に入りの場所、心が落ち着く穏やかな場所、やる気みなぎる場所など）
- ・ **多様な文化と出会う**（書籍、絵画、工芸、音楽、歴史、伝統など）
- ・ **多様な体験と出会う**（ものづくり、栽培、調理、演劇、スポーツなど）
- ・ **多様な学びと出会う**（個別最適化された学び、グループ学習、探究的な学びなど）

【混在とは】

- ・ **多世代が混在**する（乳児、幼児、児童、生徒に加え、教職員、地域の方々、大熊を応援する様々な方々が混ざって一緒に遊んだり、学んだり、活動したりする空間）
- ・ 発達段階に応じた活動場所が混在する
- ・ **アナログとデジタルが混在**する（実物に触れる、直接体験する、文字や映像として理解する、仮想的に体験する、遠隔での交流など）

0才から15才までが学び・地域住民も集う校舎

■外観パース



図書ひろば(おおくまベース)を中心としたゾーニング



校舎と敷地のイメージ

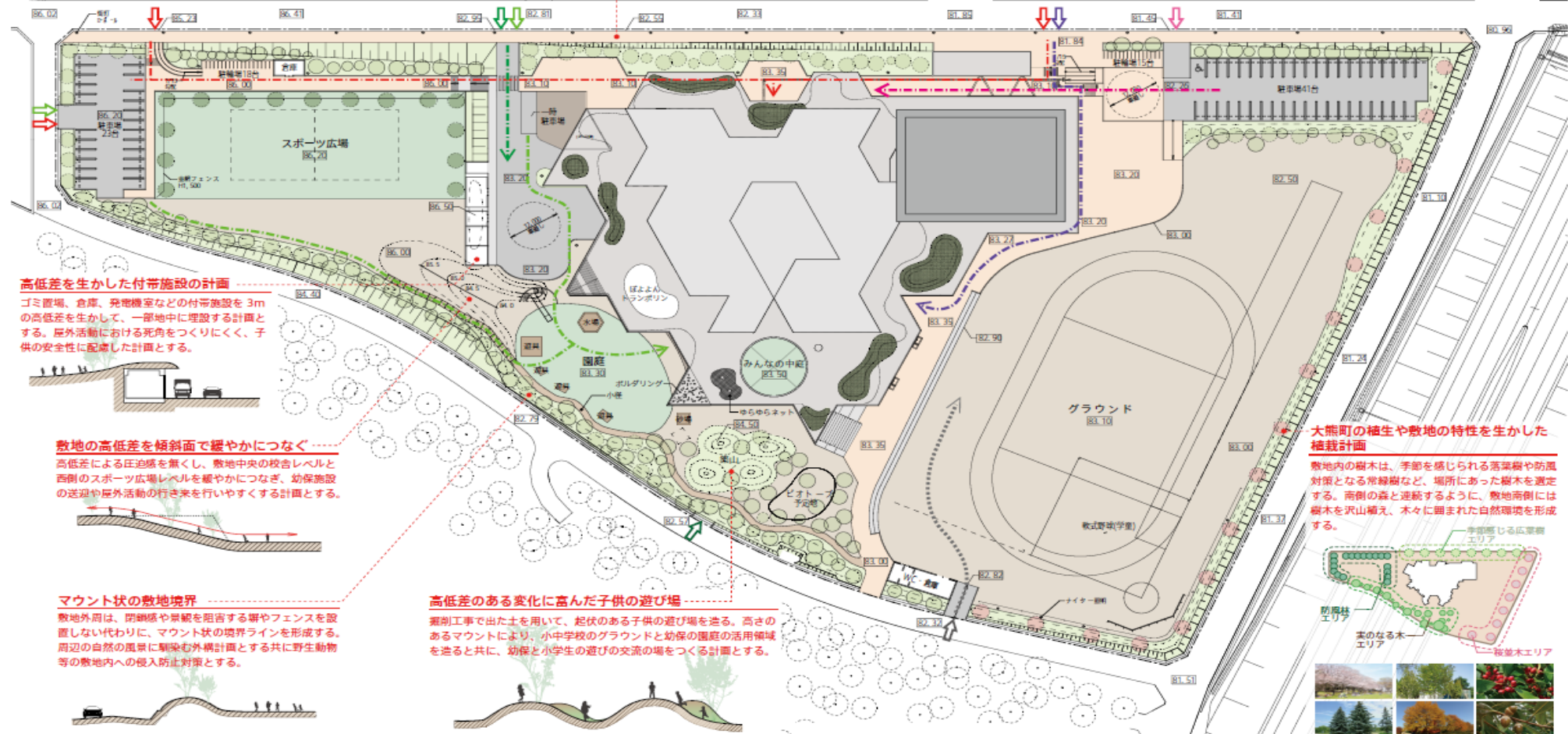
■配置計画図（外構計画図）

施設へのアプローチは、幼児、小中学生、教職員、地域住民など利用者に合わせた出入口・アプローチを計画し、それぞれの付近に管理諸室を配置し、職員の視認によるセキュリティを確保した計画とする。外部に隣接する各教室には、外部空間を取り込み、床仕上げをウッドデッキや土間、深い軒を出し、半屋外領域を形成する。屋内、半屋外、屋外と段階的な領域づくり、屋内外の連続した活動や周辺の自然環境を享受しやすい計画とする。

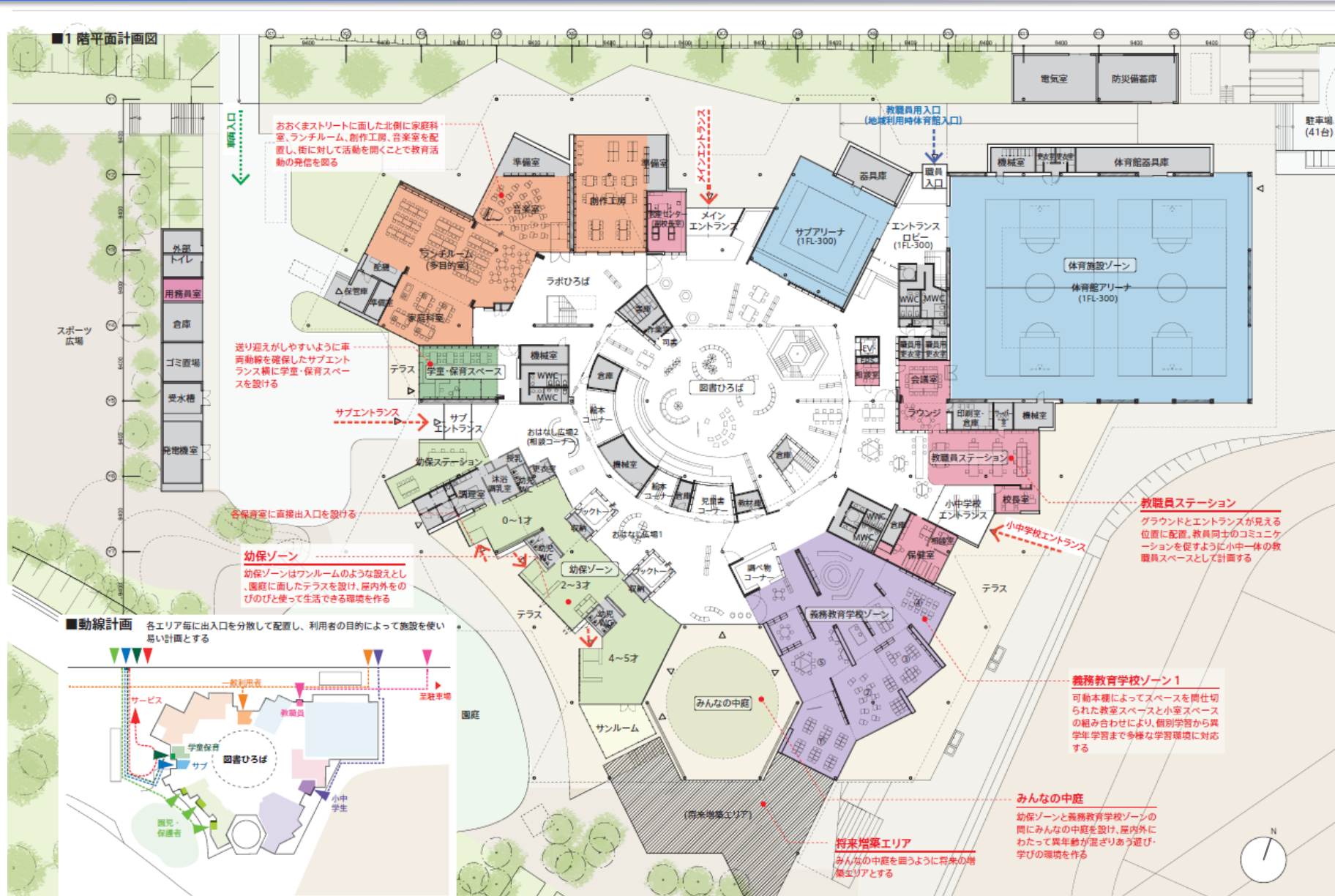
施設を取り囲む大きなプロムナード

人を施設へと自然に引き寄せる大きなプロムナードを施設周囲を取り囲むように計画する。歩行性に配慮した舗装ブロックを採用し、児童や利用者のアプローチを演出する。

凡例	利用者	利用者出入口
舗装ブロック（プロムナード）	教職員	教職員出入口
天然芝・人工芝	児童（小中）	児童出入口
クレイ舗装	保護者送迎	保護者送迎出入口
	サービス	サービス出入口
	緊急車両	緊急車両出入口



幼保・義務教育学校 ゾーン (1階)

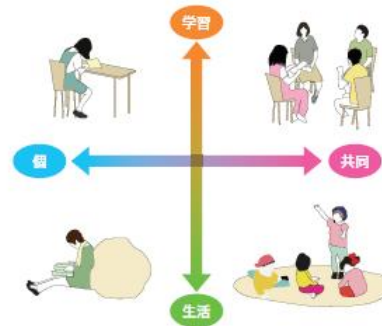


義務教育学校・大学サテライト・教員研修ゾーン(2階)

■2階平面計画図

□学習環境の考え方

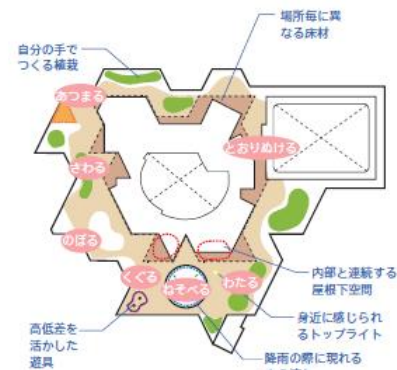
施設全体の学習環境の設えとして、落ち着いて学習に集中できる環境からリラックスできる環境、個人で学習する環境から共同で学習する環境、様々なシチュエーションに対応する場所を用意し、生徒が自分で環境を選択しながら学習できる計画とする。



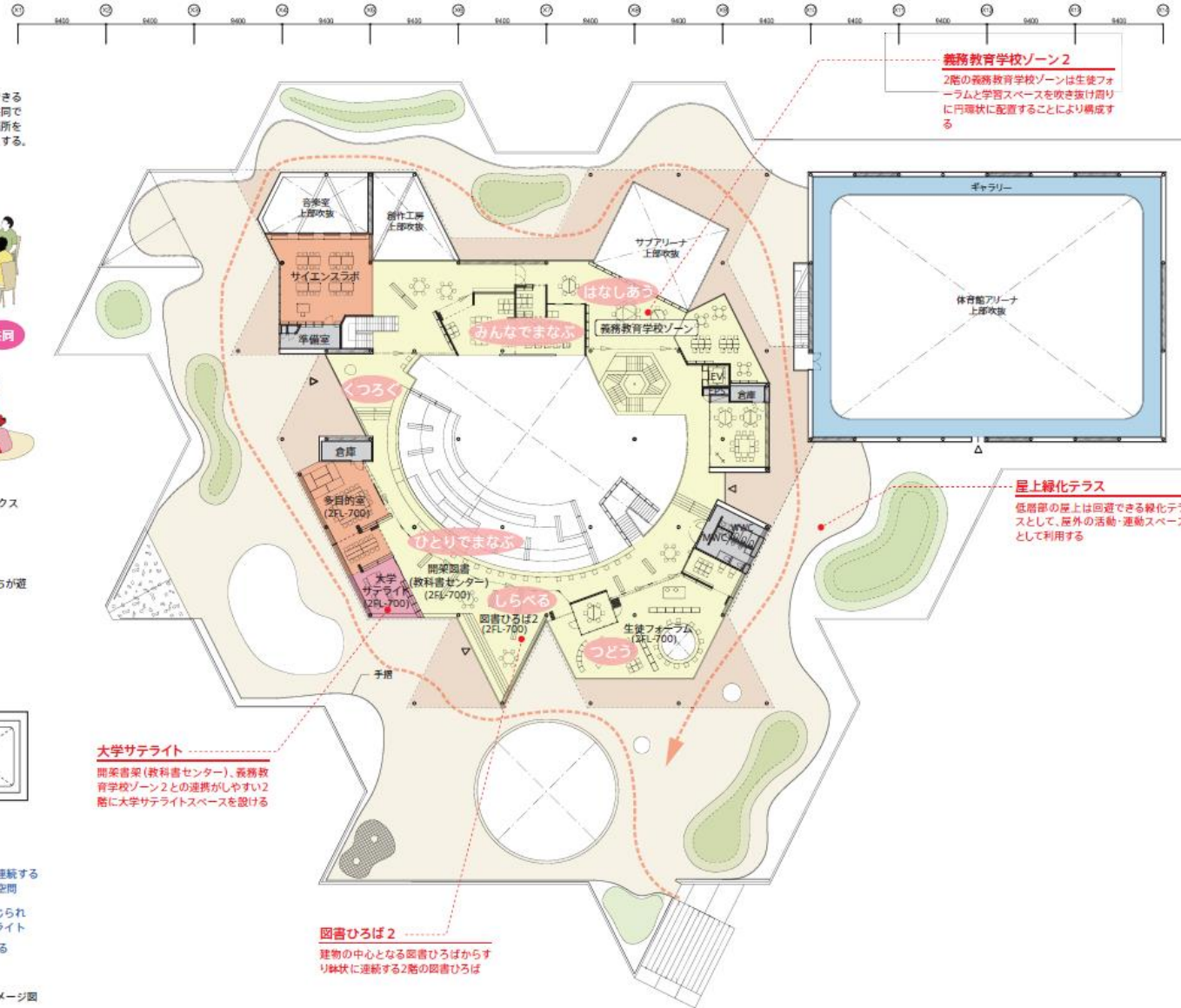
学習空間マトリクス

□屋上広場計画

1階屋上は、「遊びと創造のひろば」をテーマとし、子供たちが遊びながら学べる仕組みを随所に取り入れる計画とする。



屋上広場計画イメージ図



義務教育学校ゾーン2

2階の義務教育学校ゾーンは生徒フォーラムと学習スペースを吹き抜け周りに円環状に配置することにより構成する

屋上緑化テラス

低層部の屋上は回遊できる緑化テラスとして、屋外の活動・運動スペースとして利用する

大学サテライト

開架図書(教科書センター)、義務教育学校ゾーン2との連携がしやすい2階に大学サテライトスペースを設ける

図書ひろば2

建物の中心となる図書ひろばからすり鉢状に連続する2階の図書ひろば